

奈良市企画総務課・ごみ懇談会共同

レジ袋調査報告書



2004年

奈良市環境清美部企画総務課

はじめに

全国各地で、今、マイバック運動（買い物袋持参運動）が注目されています。その目的は、レジ袋の削減です。日本では年間約 280 億枚のレジ袋が使用されており、（1人当たり年間約 200 枚）これを石油に換算すると年間 5 億 7,800 万リットル（ちなみに 1 日当たりの原油輸入量は 6 億 8,600 万リットル）に相当し、またごみに換算すると年間 28 万トンを排出することとなります。このことは薄い一枚のレジ袋ですが、数も積れば膨大なごみ量であり、また含まれる多くの化学物質を大気中へ放出することとなり、これからの地球環境を考えると、現在の大量消費・大量廃棄型のライフスタイルの見直しを避けて通れないことは明らかです。

レジ袋は私たちの生活の中で非常に身近で便利な包装・流通資材・手段として汎用化していますが、現在のライフスタイルを見直すきっかけとして、レジ袋削減はごみ減量対策・資源節約の誰もが取り組める対象です。また、既に、一部のスーパーなど販売者側では、レジ袋をお断りした方に特典サービスを設けるなど、レジ袋削減の取り組みが始まっています。このような視点から、今回、レジ袋の使用実態について調査を実施しました。

第 1 章 レジ袋等使用量調査

1 - 1 目的

ごみ減量化・石油資源の消費抑制・リサイクルの推進等を進める上で、レジ袋の使用量を抑制するための基礎資料を収集することを目的として、奈良市内の大規模小売店舗 39 店、レジ袋抑制店舗 1 店、コンビニエンスストア 2 事務所を対象にレジ袋・ポリ袋の使用量、減量対策等の実態調査を行った。

1 - 2 調査方法

調査方法は、個別訪問依頼により様式 1 に記載し、ファックス、または郵送で回答してもらう方法で実施した。

- (1) 調査期日 平成 15 年 3 月 24 日～31 日
- (2) 調査箇所 大規模小売店舗法に定める小売店舗のうち、レジ袋等を多量に使用していると思われる店舗及びコンビニエンスストアを対象にする。

スーパーマーケット部門	18件
ホームセンター部門	7件
家電業部門	8件
コンビニエンスストア部門	2件 (店舗数 31 店)
その他	7件
計	42件

以下、調査に協力依頼した店舗名一覧

スーパーマーケット部門

	名 称
1	(株)ダイエー奈良店
2	(株)ダイエー 富雄店
3	ジャスコ奈良店
4	イズミヤ(株)学園前店
5	サントウン高の原
6	ジャスコ奈良南店
7	イズミヤ新大宮店
8	ビックナラ
9	近商ストア中登美店
10	近商ストア西大寺店
11	いそかわ奈良店
12	いそかわ尼ヶ辻店
13	いそかわ押熊店
14	(株)中村屋富雄店
15	フレンドリーショップ寿屋高の原店
16	ライフ学園前店
17	ならコープ奈良市民生活協同組合
18	デイリーマート

その他

	名 称
1	酒のやまや紀寺店
2	酒のやまや菅原店
3	S A K E 市場マルシェ奈良押熊店
4	100円ショップダイソー
5	アルペン奈良尼辻店
6	オートバックス奈良押熊店
7	ジェームス奈良店

ホームセンター部門

	名 称
1	ホームセンターオレンジタウン奈良店
2	ロイヤルホームセンター学園前店
3	ロイヤルホームセンター奈良
4	ホームセンターコーナン三条大路店
5	コーナン学園前登美ヶ丘店
6	近鉄ビックス奈良押熊店
7	(株)ジュンテンドー西ノ京店

家電業部門

	名 称
1	(株)ミドリ電化おしくま店
2	上新電機(株)奈良1ばん館
3	上新電機(株)学園前店
4	上新電機(株)しんおおみや店
5	上新電機(株)おしくま店
6	八千代ムセン電機(株)おしくま店
7	コジマ(株)NEW奈良店
8	(株)ヤマダ電機奈良本店

コンビニエンスストア部門

	名 称
1	サークルケイ・ジャパン(株)奈良事務所
2	ローソン(株)奈良地区事務所



(3) 調査表

様式 1

調査内容		回答欄
貴社名		
レジ袋等の使用量（年間使用量）	レジ袋	LLサイズを超えるサイズ（ ）枚・kg/年 LLサイズ（ ）枚・kg/年 Lサイズ（ ）枚・kg/年 Mサイズ（ ）枚・kg/年 Sサイズ（ ）枚・kg/年 SSサイズ（ ）枚・kg/年 SSサイズより小さなサイズ（ ）枚・kg/年 計（ ）枚・kg/年
	ビニール袋	（ ）ロール・kg/年 （ ）ロール・kg/年 単位がロールの場合は、1 ロールあたり（ ）枚つづり
貴社が実施しているレジ袋等の減量対策（具体的な事例を記入して下さい。）		
レジ袋の使用について、貴社では、どのようにお考えですか？ （該当するものに をして下さい。）		お客様へのサービスであり、使用はやむを得ない。 経費もかかるので、マイバック等で買い物に来て欲しいが、具体的な措置はとるつもりはない。 ごみの減量・石油消費の抑制につながるので、レジ袋等の使用を抑制したい。実施可能な抑制策があれば、是非実施したい。 環境問題に配慮して、現在上記欄のような抑制策を実施しております。 その他（ ）

（注記）

レジ袋とは、消費者が商品の持ち帰りのために用いるプラスチック製の手提げ袋

ビニール袋とは、サッカー台（消費者が商品を袋に入れる作業をする台）に置かれているロールに巻かれた透明・半透明のポリ袋、又はレジ係で水もの商品などに対して使用しているポリ袋のことを言う。

1 - 3 調査結果 (集計・回答32社/調査依頼42社)

(1) レジ袋等の使用量 (1年間)

レジ袋 91.0枚/人 235.7枚/世帯
 33,431,000枚(概算) 276,527kg(換算)

ポリ袋 78.6枚/人 203.6枚/世帯
 28,886,000枚(概算) 29,000kg(換算)

<内訳>

		レジ+ポリ (1人当たりの枚数)	
スーパー部門	51,986,000枚	141.5枚	83.4%
ホームセンター部門	4,517,000枚	12.3枚	7.3%
家電部門	366,000枚	1枚	0.6%
コンビニ部門	4,912,000枚	13.4枚	7.8%
その他	536,000枚	1.5枚	0.9%

(注記)平成15年3月1日現在の奈良市の総人口367,302人 世帯数141,850世帯を基礎に年間総使用枚数を除して算定した。

(2) レジ袋等の減量対策の実施事項別企業数 (重複回答)

回答社数

- ・スタンプカードの発行 3社
- ・エコポイントのサービスの実施 8社
- ・エコロジーバック販売 5社
- ・商品にシールを貼り付けて、商品代金の精算 11社
- ・お客様に声をかけ、レジ袋の配布枚数を少なくするよう
協力を求める 3社
- ・生協への加入時に専用の買い物バックを無料で配布し
買い物の際に買い物袋をお持ち頂くように呼びかける
(買い物の際にバックを忘れるとレジ袋1枚5円で販売) 1社
- ・重量物や大量のお買い物に対してダンボール箱を貸与 1社
- ・レジ袋の薄型化 1社

(3) レジ袋の使用に対する企業の考え(重複回答)	回答社数
お客様へのサービスであり、レジ袋の配布はやむを得ない。	16社
経費もかかるので、マイバック等で買い物に来て欲しいが、具体的な措置はとるつもりはない。	6社
ごみの減量・石油消費の抑制につながるので、レジ袋等の使用を抑制したい。また、他に実施可能な減量対策があれば、是非実施したい。	9社
環境問題に配慮して、現在(2)のような減量対策を実施しております。	12社
その他	0社

1 - 4 考察

今回の奈良市の調査で、第1種小売店舗で使用されているレジ袋の平均使用枚数は、91枚/人/年であったが、東京都などの調査によれば、1人当たり年間使用量が300枚程度であると想定されており、これ以外で一般の小売店舗でも相当量のレジ袋が恒常的に使用されているものと思われる。

減量化対策の実施傾向としては、スーパー部門がレジ袋の使用量も一番多く、買い物袋持参運動にも取り組んでいる。エコロジーバックを販売して、スタンプカード、エコポイントといったお買い物券と交換になる制度を行い、レジ袋の減量に努めている店舗が14社回答中11社あり、何らかの対策はとられていた。ただ、商品の品数が多く単品で買い物をするお客が少ないので、商品にシールを貼る事ができず他の事業所とくらべるとレジ袋の使用量が多いと思われる。スーパー以外の事業所は商品にシールを貼ったり、お客さんに声をかけ配布する枚数を少なくしてレジ袋の減量を行っているが、実施割合は少なかった。また、重量物や大量のお買い物に対して、商品の入っていたダンボール箱を使用しレジ袋の減量を行っている事業所もあった。



第2章 レジ袋等使用実態調査

2-1 目的

レジ袋の企業側の年間供給実態に関しては、第1章で調査を行った。第2章では、使用量の多い大規模小売店舗を抽出し、消費者のレジ袋の使用行動及び活用意識、販売側の提供サービスへのスタンス、内容及び販売戦略などを調査・把握することにより、市民への使用抑制（例えば、マイバック運動等）の啓発活動等を行うための基礎資料を収集すること目的として調査を実施した。

2-2 実態調査

実態調査は市民団体『ごみ懇談会』（奈良市が主催したごみ減量学習会の卒業生の会）の協力により、奈良市内でレジ袋削減のための特典制度三方式（レジ袋有料方式 スタンプ方式 値引き方式）を実施しているスーパー3店と特別な特典制度を実施していない1店を選定し、調査を行った。

(1) 調査日時

レジ袋調査	平成15年8月25日	11時から12時までの1時間 16時から17時までの1時間
店長聞き取り調査		15時30分から16時まで

(2) 調査方法

奈良市内のスーパー4店を特典制度の有・無、内容により下記要件で選定、以下の方法で調査を実施した。

- スタンプ制を実施している店舗・・・・・・・・・・・・・・・・・・A店
(複合施設内の大型スーパー)
- レジ袋を有料にしている店舗・・・・・・・・・・・・・・・・・・B店
(周辺に商業施設が点在するスーパー)
- レジ袋辞退者に対して購入代金から値引きしている店舗・・・・・・・・・・C店
(国道沿いのチェーンスーパー)
- レジ袋辞退者に対して特別な特典制度を設けてない店舗・・・・・・・・・・D店
(住宅地内のスーパー)

《調査実施項目》

- (1) 店長等からの店舗調査----（聞き取り調査方式）
- (2) レジ台での計測（観察）調査（確認調査員が調査票に記述する。--様式（表 ）による。）
- (3) 消費者へのアンケート調査（レジ台での精算を終了した買物者の中から抽出し、質問書を提示し、回答事項（番号）を聞き取り、調査票---様式（表 ）に記述取りまとめる。）

《調査事項・内容》

.店長等からの調査聞き取り事項

当該店舗の出店年次とその後の拡張等の経緯（概略）

店舗面積(敷地・売場)、駐車場台数、従業員数(アルバイト・パートを含む)

1日あたりの平均総来客数とピーク時の時間帯及び1時間あたりの来客数

商品の種目割合(陳列商品数の概略)

果実(%), 野菜(%), 肉類(%), 水産物(%), 加工食品(%),

調味料等(%), 菓子・パン類(%), 飲料類(%), その他(%)

（注）調査対象店舗により陳列商品の品目区分、分類が若干異なっていた。

営業形態

休日、特売日、開店時間及び閉店時間（一週間及び月間の販売計画など）

レジ袋、ビニール袋の規格種類と使用枚数等

大・中・小の区分サイズと使用枚数(月間もしくは年間)

レジ袋、ビニール袋の単価及び費用(概数)

レジ袋、ビニール袋のあり方、使用抑制の改善策等についての意見をお聞かせ下さい。 販売側のメリット・デメリット

.レジ台での計測（観察）調査 〔調査票 表 〕

各確認調査者が調査票（表 の様式）にレジ従事者の作業状況を観察した範囲で調査票に記載する。

なお、レジ機の横に立ち、店員の業務とお客に迷惑がかからないように配慮するとともに、調査中は店員等には、原則として、会話・質問等は行わないよう留意するとともに観察計測者の判定により記録する。

調査事項内容は、調査票（表 ）に記録する。（調査項目は、別紙調査票の通り）

店舗の来客事情等により複数のレジ台が稼働するので、その調査対象レジ台の選択は、店舗責任者と事前に打合せた上で選択し実施する。

アンケート調査者の聞き取り事項等

アンケート調査該当者は、レジ台での精算作業(お客様の混雑)の状況を見ながら抽出して聞き取り調査方式で進める。質問事項は、質問書を提示し、回答を聞いて記録用紙に記述する。

なお、レジ精算手続きを終えられたお客様の了解を得て、アンケート調査の協力してもらおう。なお、お客様は商品の片付け等で取り込んでいるので、その対応について十分に配慮する。

調査に当たっては、まず、「奈良市の依頼を受けてレジ袋の実態についてアンケート調査をしています。」と名乗って、質問書に準じて応答方式で質問を行う。身分等について質問があった場合は渉外係が対応する。(レジ台周辺に調査協力依頼文を掲示する。)

《アンケート調査の質問書》

<協力依頼と調査実施主体、目的を明確にすること。>〔調査票 表 〕

- 問1 この店舗の利用度合
(毎日利用 隔日利用 週1~2回 初めて利用)
- 問2 この店舗に来られた交通手段
(自動車 バイク 自転車 電車 バス 徒歩 その他
())
- 問3 レジ袋は何時ももらわれていますか?
(何時ももらっている。 買物袋を持参している。 何時もは買物袋を持参している。)
- 問4 家に持ち帰ったレジ袋はどのようにされていますか? (問3 回答の人、重複回答可)
(ごみ袋又はごみ袋の内袋として使用 ごみとして出している。(燃やせるごみ・燃やせないごみ・その他プラスチック) その他
())
- 問5 ごみ減量化としてのレジ袋辞退者へのスタンプ制度やポイント制度をどう思われますか?
(賛成 反対 その他())
- 問6 その他レジ袋についてご意見がありますか?
()

レジ台での個人別お客の購入観察調査(表-) 店舗名()

項目 番号	性別	予想年代	レジ袋の要否と枚数		備考
			要・否	手渡枚数	
1	男・女	才代	要・否	枚	
2	男・女	才代	要・否	枚	
3	男・女	才代	要・否	枚	
4	男・女	才代	要・否	枚	
5	男・女	才代	要・否	枚	
6	男・女	才代	要・否	枚	
7	男・女	才代	要・否	枚	
8	男・女	才代	要・否	枚	
9	男・女	才代	要・否	枚	
10	男・女	才代	要・否	枚	
11	男・女	才代	要・否	枚	
12	男・女	才代	要・否	枚	
13	男・女	才代	要・否	枚	
14	男・女	才代	要・否	枚	
15	男・女	才代	要・否	枚	
16	男・女	才代	要・否	枚	
17	男・女	才代	要・否	枚	
18	男・女	才代	要・否	枚	
19	男・女	才代	要・否	枚	
20	男・女	才代	要・否	枚	
合計	男 名		要 名	枚	
	女 名		否 名		

調査票記入者()

2 - 3 調査結果

店長等からの調査事項

	A店	B店	C店	D店
当該店舗の出店年次	平成15年7月10日	平成4年4月3日	平成12年11月29日	平成9年
拡張等の経緯		1回目拡張 平成9年9月20日 2回目拡張 平成12年5月12日		
店舗面積				
敷地	41,509㎡	3,678坪	23,000㎡	1,155㎡
売場	14,992㎡	697坪	995㎡	792㎡
駐車場台数	1,517台	200台	250台	60台
従業員数	640人	161人		35人
1日あたりの平均総来客数	20,000人	2,500人	1,450人	1,300人
ピークの時間帯	15時～16時	17時	17時～18時	17時～19時
1時間あたりの来客数	2,200人	228人	170人	120～130人
商品の種目割合				
果実	4.2%	5.8%	4.0%	5.0%
野菜	15.0%	13.3%	5.0%	15.0%
肉類	7.7%	14.8%	7.0%	13.0%
水産物	8.1%	13.3%	7.0%	12.0%
加工食品	8.1%	6.8%	10.0%	12.0%
調味料等	2.8%	4.5%	4.0%	5.0%
菓子・パン類	4.8%	8.6%	10.0%	8.0%
飲料類	7.0%	1.5%	5.0%	15.0%
その他	42.3%	31.0%	48.0%	15.0%
営業形態				
休日	なし	年3回(1/1・9月・2月)	3日/年	なし
特売日	なし	週末(金～日)	なし	毎日
開店時刻	10時	10時	9時	10時
閉店時刻	22時	21時	24時	20時
販売計画	広告等は、毎週水曜日を販売基準日として、土・日セール等を実施する。	火曜日卵1割引、水・木曜日98円均一、木曜日JAなら野菜、土曜日三重の魚など	特売チラシは原則なし。今は、他店対策のためチラシ強化	チラシ週3回
レジ袋、ビニール袋の規格種類と使用枚数等	サイズ(mm) 単価(円/ケース) (枚/月)	(円/枚) (枚/月)	(枚/月)	(枚/月)
特大	500x600 2,365 135,000		平均単価 2円50銭～2円80銭	費用 1,229,000円/年
大	450x550 1,691 180,000	レジ袋1種類 1.98 17,000	40,000	30,833
中	400x470 1,348 129,900	ビニール袋1種類 0.5 48,000	38,000	3,583
小	280x400 899 69,900		2,000	1,833
レジ袋についての意見	・20個のスタンプ台紙に満杯になれば、100円相当の商品と交換する制度であるがまだ浸透していない。 ・ポイントorクレジットカードの使用状況も2割程度以下の感じである。	・有料。会員加入時に布袋を無料で渡している。(400円)反対はない。意識は高い。	・消費者の環境保全に対する意識は薄く、レジ袋抑制をサービスの低下と捉えられてしまう。 ・500円に対して、袋辞退者には2円のエコ値引きを行っているが、お客様は、ポイントの上乗せを望んでいるようだ。	・必要枚数だけ出す方式は、今後も続ける。ただし、将来お客の環境への意識が変わってくれば、その時また考える。 ・買い物袋持参によるデメリットは万引きである。
			・店側としては、消費者が意識を変えていかなければならない部分であると、思っている。	

レジ台での個人別お客の購入観察調査結果(総括表)

午前(11時~12時) 午後(16時~17時)		A店					B店					C店					D店					4店舗合計値		
		午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	総計	割合(%)	店別(%)
性別	男(人)	37	54	91	19.2	43.5	8	20	28	8.8	13.4	12	31	43	18.2	20.6	22	25	47	21.3	22.5	209	16.7	100.0
	女(人)	132	220	352	74.3	35.8	104	171	275	86.2	28.0	61	121	182	77.1	18.5	94	80	174	78.7	17.7	983	78.6	100.0
	夫婦(組)	14	17	31	6.5	53.4	7	9	16	5.0	27.6	7	4	11	4.7	19.0	0	0	0	0.0	0.0	58	4.7	100.0
	小計(人)	183	291	474	100.0	37.9	119	200	319	100.0	25.5	80	156	236	100.0	18.9	116	105	221	100.0	17.7	1250	100.0	100.0
年代(人)	0才代	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	1	0	1	0.4	100.0	0	0	0	0.0	0.0	1	0.1	100.0
	10才代	4	9	13	2.7	37.1	1	0	1	0.3	2.9	3	2	5	2.1	14.3	8	8	16	7.2	45.7	35	2.8	100.0
	20才代	23	34	57	12.0	35.5	8	14	22	6.9	13.8	17	26	43	18.2	26.9	15	23	38	17.2	23.8	160	12.8	100.0
	30才代	42	64	106	22.4	39.3	26	35	61	19.1	22.7	19	32	51	21.6	19.0	20	31	51	23.2	19.0	269	21.5	100.0
	40才代	25	68	93	19.6	37.3	31	55	86	27.0	34.5	11	25	36	15.3	14.5	26	8	34	15.4	13.7	249	19.9	100.0
	50才代	35	55	90	19.0	34.5	25	55	80	25.1	30.7	23	35	58	24.6	22.2	22	11	33	14.9	12.6	261	20.9	100.0
	60才代	32	38	70	14.8	36.0	21	34	55	17.2	28.4	6	30	36	15.3	18.6	15	18	33	14.9	17.0	194	15.5	100.0
	70才代	21	23	44	9.3	55.0	7	7	14	4.4	17.5	0	6	6	2.5	7.5	10	6	16	7.2	20.0	80	6.4	100.0
	80才代	1	0	1	0.2	100.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	1	0.1	100.0
	小計(人)	183	291	474	100.0	37.9	119	200	319	100.0	25.5	80	156	236	100.0	18.9	232	210	221	100.0	17.7	1250	100.0	100.0
レジ袋(人)	要	155	255	410	86.5	46.3	16	32	48	15.0	5.4	73	142	215	91.1	24.2	112	102	214	96.8	24.1	887	71.0	100.0
	否	28	36	64	13.5	17.6	103	168	271	85.0	74.7	7	14	21	8.9	5.8	4	3	7	3.2	1.9	363	29.0	100.0
	小計(人)	183	291	474	100.0	37.9	119	200	319	100.0	25.5	80	156	236	100.0	18.9	116	105	221	100.0	17.7	1250	100.0	100.0
	手渡し枚数(枚)	296	447	743		50.4	17	53	70		4.8	116	229	345		23.4	151	164	315		21.4	1473		100.0

アンケート調査

午前(11時~12時) 午後(16時~17時)		A店					B店					C店					D店					4店舗合計値		
		午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	午前	午後	合計	割合(%)	店別(%)	総計	割合(%)	店別(%)
	調査人数(人)	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0
問1	毎日利用	4	13	17	12.1	27.4	2	5	7	8.7	11.3	5	5	10	12.6	16.1	14	14	28	41.7	45.2	62	16.8	100.0
	隔日利用	13	10	23	16.3	31.1	10	12	22	27.2	29.7	10	4	14	17.7	18.9	8	7	15	22.4	20.3	74	20.1	100.0
	週1~2回	16	37	53	37.6	34.6	15	17	32	39.5	20.9	21	27	48	60.8	31.4	7	13	20	29.9	13.1	153	41.6	100.0
	初めて利用	4	22	26	18.4	68.5	1	0	1	1.2	2.6	5	2	7	8.9	18.4	1	3	4	6.0	10.5	38	10.3	100.0
	月1回	5	14	19	13.5	86.4	1	2	3	3.7	13.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	22	6.0	100.0
	月2~3回	0	3	3	2.1	25.0	2	7	9	11.1	75.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	12	3.3	100.0
	週3~5回	0	0	0	0.0	0.0	0	7	7	8.6	100.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	7	1.9	100.0
	小計	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0
問2	自動車	22	50	72	51.0	33.7	27	42	69	85.2	32.4	27	27	54	68.3	25.4	8	10	18	26.9	8.5	213	57.9	100.0
	バイク	1	6	7	5.0	33.3	1	1	2	2.5	9.5	2	4	6	7.6	28.6	2	4	6	9.0	28.6	21	5.7	100.0
	自転車	10	13	23	16.3	45.1	1	4	5	6.2	9.8	9	7	16	20.3	31.4	5	2	7	10.4	13.7	51	13.9	100.0
	電車	0	6	6	4.3	100.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	6	1.6	100.0
	バス	6	19	25	17.7	89.3	0	0	0	0.0	0.0	1	0	1	1.3	3.6	1	1	2	3.0	7.1	28	7.6	100.0
	徒歩	3	5	8	5.7	16.7	1	3	4	4.9	8.3	2	0	2	2.5	4.2	14	20	34	50.7	70.8	48	13.0	100.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	1	0	1	1.2	100.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	1	0.3	100.0
	小計	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0
問3	いつももらう	27	66	93	66.0	44.3	3	6	9	11.1	4.3	30	24	54	68.3	25.7	26	28	54	80.6	25.7	210	57.1	100.0
	持参	7	9	16	11.3	16.3	28	36	64	79.1	65.3	5	10	15	19.0	15.3	2	1	3	4.5	3.1	98	26.6	100.0
	いつもは持参	8	24	32	22.7	54.3	0	7	7	8.6	11.9	6	4	10	12.7	16.9	2	8	10	14.9	16.9	59	16.0	100.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0	1	1	1.2	100.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	1	0.3	100.0
	小計	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0
問4	ごみ袋	33	92	125	88.6	37.6	24	46	70	86.5	21.1	39	32	71	89.9	21.4	29	37	66	98.5	19.9	332	90.2	100.0
	ごみ	4	3	7	5.0	41.1	5	2	7	8.6	41.2	2	0	2	2.5	11.8	1	0	1	1.5	5.9	17	4.6	100.0
	その他	5	4	9	6.4	47.3	2	2	4	4.9	21.1	0	6	6	7.6	31.6	0	0	0	0.0	0.0	19	5.2	100.0
	小計	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0
問5	賛成	38	95	133	94.4	42.6	24	39	63	77.8	20.2	40	28	68	86.0	21.8	19	29	48	71.7	15.4	312	84.8	100.0
	反対	0	3	3	2.1	10.7	2	6	8	9.9	28.6	1	9	10	12.7	35.7	6	1	7	10.4	25.0	28	7.6	100.0
	その他	4	1	5	3.5	17.8	5	5	10	12.3	35.7	0	1	1	1.3	3.6	5	7	12	17.9	42.9	28	7.6	100.0
	小計	42	99	141	100.0	38.3	31	50	81	100.0	22.0	41	38	79	100.0	21.5	30	37	67	100.0	18.2	368	100.0	100.0

マイバッグあれこれ

【再生素材でできているタイプ】



ペットボトル再生繊維を使用。
再生品の使用がごみ減量の第一歩。

【レジカゴに収まるタイプ】



レジ会計時にカゴにセットすれば、
面倒な商品の詰め替え作業が省略。

【入口が閉じられるタイプ】



入り口が閉じられるので、
防犯にも効果的。

【コンパクトにたためるタイプ】



使わない時はたたんで収納、
買い物時にすぐに取り出して使える。

【カラフルでおしゃれなタイプ】



わずか 50 グラムで、広げると大きめのレジ袋サイズ。
フックがついており、ふだん持ち歩くカバンにつけておくと絶対に忘れない。本体の内側には収納ケースの紛失を防ぐためのループもついている。

2 - 4 . 考察

今回の実施した調査は、準備不十分な点も若干あったが、調査対象 4 店舗の全面的な協力と、調査員や皆様の支援により、数値・結果とも予想を上回る成果が得られたことを感謝する。なお、クロス集計による調査事項毎の分析結果で店舗の位置、性格による違い、特長は若干みられるが、消費者の買い物行動にあまり変化、違いが見られなかった。

1. レジ袋の利用形態と意義づけ

店舗側は、商品を販売するうえでレジ袋が非常に利便性の高い手段と位置づけている。(例えば、A 店は、新規出店舗の際に、お客様へのサービスと位置づける中で、商品の包装等に十分に配慮するように指示している。)

今回の調査結果(レジ台での観測人数 1,250 人に対する調べ)

4 店舗の平均値

1 人当たりの平均手渡枚数	1.66 枚 / 人 (最小 1.46 枚 / 人 ~ 最大 1.81 枚 / 人)
レジ袋の要望者割合	71.0%
" (B 店を除く)	90.1%
" (B 店のみ)	15.0%

お客様がレジ袋を持ち帰り、レジ袋をどの様に利用しているかのアンケート調査 368 名中の内訳は、

ごみ袋(内、小袋としての利用を含む)	332 名(90%)が利用する。
ごみとしてレジ袋を排出する。	17 名(4.6%)のみ
その他	19 名(5.2%)であった。

(*)以上の結果からも、大多数の買い物者は、ごみ袋及びごみ小袋として再利用を実施しているものと理解する。

では、アンケート調査の問 3 (レジ袋の要否)と問 4 (レジ袋の利用方法)のクロス集計から相関を見ると、

「問 3 - 何時ももらう」210 人中、問 4 の 「ごみ袋として利用」と回答したものは、203 人で 96.7%の殆どの者が「ごみ袋として再利用を実施する」とごみ袋をもらう目的を明確に位置づけていることが判明し

た。

また、同様に「問3 - 「何時もは買物袋を持参者」59人中でも、問4の「ごみ袋として利用」と回答したものは、54人で91.5%の者もレジ袋をごみ袋として再利用し、手ごろな手段として認識されている。

個別ヒヤリングでの回答事項(一例)

「レジ袋の自宅在庫量が少なくなると、買物の際にレジ袋を貰って帰る。(確保する。)」との回答の様に、レジ袋が無ければ、ごみ排出の時に困ることになる事情があることがわかる。

更に、上記、 の関係を年代別、男女別(レジ台観測値)、あるいは、買物交通手段との関連で分析を試みたが、その傾向に違い、変化はあまり見られなかった。

アンケート調査 問5のポイント、スタンプ制度導入への賛否と調査手法が異なるが、レジ袋の要否を関連づけて分析を実施した。

ポイント、スタンプ制度の導入について賛成者は、

4店舗計 368人中 312人が賛成(85%)

B店 81人中 63人が賛成(78%)

B店を除く3店舗 287人中 249人が賛成(87%)

と全ての店舗利用者の大多数は賛成の意向を示している。

逆に、ポイント、スタンプ制度の導入に反対者は、

4店舗計 368人中 28人が反対(7.6%)

B店 81人中 8人が反対(10.0%)

B店を除く3店舗 287人中 20人が反対(7.0%)

(*)賛成・反対者の構成比は、B店と、他の3店舗とでは、有料制度を採用していることから、若干異なる。ポイント、スタンプ制の反対理由には、手続等の煩雑さと、カードを買物時に常に携帯することの面倒さなどが考えられる。賛成・反対理由には、レジ袋の要否とレジ袋が多量に家庭の台所に滞留しても困るなど、様々な要因が考えられる。しかし、結果的に面倒だから、買い物時に僅かな金額だし、その場で現金精算方式が簡易で即決であるという人もある。



2. マイバック運動について

アンケート調査 問3の「マイバッグを持参」した者が、全店舗で368人中の98人、割合にして26.6%しか買物袋を持って来ていない。また、B店のみの数値は、81人中の64人(構成比79.0%)が持参し、有料袋(袋料金1枚5円程度)は使用していない。逆に、B店以外の3店舗平均値は、287人中の34人(構成比11.8%)しか買物袋を持参していない。アンケート調査 問1の「店舗の利用回数」と問2の「買物への交通手段」との関係でマイバック持参の買物行動の違いがクロス集計の結果から判明出来ないかを検討を実施したが、

(問1の結果から)		(問2の結果から)	
<週に1~2回買物>		<自動車で買物>	
全店舗計	368人中の153人(42%)	368人中の213人(58%)	
B店のみ	81人中の32人(40%)	81人中の69人(85%)	
B店以外の3店	287人中の121人(42%)	287人中の144人(50%)	

と買物行動として4割の者が週1~2回の「まとめ買い」で5~6割の者が「車でお買い物」であった。

なお、B店舗は会員制のお店で、出店場所と利用範囲が広域にわたることもあり、車を利用する者が85%、マイバッグ持参者80%とB店舗利用者のほぼ一様の買物行動であった。

逆にD店は住宅団地内のスーパーという特殊性もあってか、買物行動が他の3店とは異なっていた、「毎日利用」が42%、「隔日」が20%「週に1~2回」が30%と相対的に買物の回数が多く、交通手段も半数以上の者が徒歩51%で、自動車で買物は27%(駐車スペースが少ない事もあるが)、調査の手法が異なるがレジ袋の要る者も96.8%、「手ぶらで散歩を兼ねて買物を」といった買物行動が多く見受けられた。

3. レジ袋のコスト試算から

今回、内袋(ポリエチレン製の袋等で魚など生き物、水漏、臭い転化防止などを目的に使用する袋類)については調査が煩雑なので出来ていないが、レジ袋の配布コスト(1枚及び1人当たり)を試算すると次の通りであった。

[サイズ別月間使用枚数と価格] (A 店舗での事例)

規格別	サイズ(横×縦)	単価	使用量/月間	1日当たり使用枚数
特大	50×60 cm	2,365 円/ケース	135 ケース	4,500 枚
L	45×55 cm	16,91 円/ケース	180 ケース	6,000 枚
M	40×47 cm	1,348 円/ケース	130 ケース	4,330 枚
S	28×40 cm	899 円/ケース	70 ケース	2,330 枚
			合計枚数	17,160 枚

(注) 1 ケース 1,000 枚単位で、特売セールがあり、若干入店者、レジ袋の使用枚数が多い。

(*) レジ袋の使用コスト (供給原価) を推定すると、

	最小値	最大値	マイバッグ推進店
レジ袋の1枚当たり原価	1 円 67 銭 / 枚	2 円 80 銭 / 枚	1 円 98 銭 / 枚
1日当たりのレジ袋使用枚数	約 1200 枚 / 日	約 17,200 枚 / 日	約 570 枚 / 日
1人当たり (1回精算時) レジ袋の配布枚数 (手渡し)	1.47 枚 / 人	1.81 枚 / 人	1.46 枚 / 人
1人1日当たりレジ袋の配布経費 (供給原価)	3 円 03 銭 / 日 / 人	4 円 25 銭 / 日 / 人	2 円 89 銭 / 日 / 人

以上のことから想定するに、各スーパーのお客サービスとしてのレジ袋の配布コスト・経費負担また、他の包装資材等への代替、商品の損傷防止、盗難防止、商品管理等の販売人件費のコスト負担合せて、お客のニーズ、利便性、更に多量に排出するレジ袋等の包装資材からの環境破壊物質の削減という環境問題等無視できない課題である。

「マイバッグの持参」運動の普及、啓発活動を進める上での参考となればと報告を取りまとめた。



レジ袋等の包装資材軽減とマイバッグ運動を

推進する上での流通体系への提言（試案）

- 1．ポイント等の特典制度を、より実行性の在るルールにするためには、現行のレジ袋1枚当たり料金5円程度で運用されているが、例えば、金額を20～30円と引き上げた場合、買い物袋の持参行動や意識に変化が生じうるのか。それとも、それとは別の何らかの異なった要因によって行動が左右されているのか、まだ解明できていない。また、料金の設定には、店舗側のコスト負担と、消費者のメリットとデメリットの両面から、更に両者の店舗事情と消費者のニーズが個々に諸事情が異なるので、消費者のマイバッグ持参運動への行動参加の分岐点は一致するのか。あるいは、どの程度の基準に料金を設定するのが適切なのかも合わせて調査・分析する必要があると考えられる。
- 2．マイバッグに変わる輸送手段として、『折りたたみ式のボックス（軽量である程度の保耐温機能を備えたものを想定）』を有料（料金は100～200円程度で継続貸与）で貸与し、店舗の買い物かごから、レジ精算を終えた商品を詰め替えて、車のトランクボックスに納入（持ち帰る方法）とする。なお、ボックスの大きさは現行の10kg入りみかん箱程度を考えている。
- 3．家族構成の高齢化、核家族化が一層進む中で、買い物行動の週1～2回のまとめ買いが主体となってきている。また、食の安全、安心が強く求められるなかで、商品の品質表示、トレサビリティ（生産経歴等）に係る確実な情報が新鮮な食品を要求されていることを背景として、次のような販売体制が考えられる。店舗内での買物商品（食品）の選定はサンプル商品番号（半導体のチップ又はバーコード番号）による買入申し込み（買い物申し込み書式）精算手続きとし、帰宅時一括納入ボックスに入れる。一定時間経過後に、買い物申し込み納入品リスト、代金の他に商品に係る品質表示、トレサビリティ情報が添付されて手渡される。納品に時間を要しても良いのなら、宅配サービスも可能であり、当然商品の包装、梱包は必要最低限に止めるとともに商品の品質保存期限に万全を期する体制とする。

（以上）

まとめ

奈良市とごみ懇談会では、環境問題・ごみ問題を改善するために、レジ袋の使用量を削減する運動に取り組んでいかなければならないと考えています。その理由としては、

市民の環境問題意識の高揚-----レジ袋の使用という問題を通じて、環境にやさしいライフスタイルへの転換のきっかけとします。

ごみの減量化-----アンケート調査においてレジ袋は、ごみ袋として再利用しているという方が多くおられました。(90%)しかし、もらったごみ袋の全てが再利用されているとは思えません。ごみ袋や内袋として使用されずに、ごみとして出されていたレジ袋の量(容量)が昨年度の奈良市のごみ組成分析調査結果から家庭から搬入される総ごみ量の約8.4%(容積比)を占めていました。(この処理費用を推算すると約5200万円に相当します。*ただし、「その他プラスチック」として全てリサイクル処理をした場合にかかる費用です。)

全てのレジ袋をなくして下さいといっているのではなく、不要なレジ袋を削減するという運動です。

資源の節減-----レジ袋は、石油から製造されています。奈良市内で年間ごみとして出されているであろうレジ袋を製造するのに、多量の石油が使われています。石油資源の消費抑制に大きな効果があります。

レジ袋の代用-----レジ袋は、安価で軽量で利便性が高いものであると認められますが、日常生活において必要不可欠なものでなく、マイバックを持参する等、市民一人一人が代用対策することができるものであります。

などが考えられます。

近年、容器包装リサイクル法を始めとする数々のリサイクル法が施行されています。しかしながら日本全体を見て、不法投棄やごみ総量がなかなか減少傾向になりません。今、レジ袋だけを減らせばよいという考え方では、有料化という手段が一番有効なのかもしれません。しかし、有料化による減量というのは、すぐに慣れてしまい、お金さえ支払えばレジ袋はいくらでも使ってよいということになりかねません。私たちは、レジ袋の削減運動を通じて、グローバルな地球環境・ごみ問題について考えていただき、事業者や市民一人一人のライフスタイルを環境を主体としたものに変えていただくきっかけになっていただければと思います。まだまだ、環境・ごみ問題については、ごみの発生抑制を図る様々な対策に取り組まなければなりません。より身近な対策として、「まずは、レジ袋から」調査をフランクな立場から実施しました。皆様のご意見、ご批判をお願いします。

奈良市ごみ懇談会一同

レジ袋調査に協力して頂いたごみ懇談会のメンバー

佐分利 みどり

木内 喜久子

伊藤 一

松木 健次

久田 経子

伊藤 芳子

西門 すみ子

西村 加代子

清水 順子

森 鈴子

橋本 幸子

福角 久美子

梅本 咲子

福山 美智

吉田 浙子

竹花 雅世

岡田 道子

宇賀田 俊子

片山 信行

前田 美代子

倉本 みゆき

- * ごみ懇談会とは、奈良市が主催しているごみ減量・リサイクル学習会修了生の有志で構成され、様々なごみ問題に取り組んでいます。

発行日 平成 16 年 7 月 28 日

発行者 奈良市環境清美部企画総務課

住所 〒631-0801

奈良市左京五丁目 2 番地

TEL 0742-71-3001

FAX 0742-71-1621

CASHIER

NO THANKS

